

目指す学校像	○自ら学ぶ生徒の育成 ○心豊かな生徒の育成 ○健康でたくましい生徒の育成 教職員が生徒一人ひとりに寄り添い、生徒どうしが互いに磨き合える、 明るく活気のある学校を保護者や地域の方と一っしょにつくる
重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す学習指導の充実 2 生徒と教職員との豊かな人間関係に支えられた生徒指導・教育相談の充実 3 学校を核とした持続可能なスクール・コミュニティの構築 4 協力して明るく活気のある学校づくりを目指す力のある教職員の育成

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、  
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価		
年 度		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年2月16日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>&lt;現状&gt; ○全国学力・学習状況調査及び市の学習状況調査において、学習への関心や意欲に係る質問に対する肯定的な回答の割合が国語、理科で上昇している。 ○学校評価における学習指導や評価に係る質問に対する保護者の肯定的な回答の割合が8割以上に上昇している。</p> <p>&lt;課題&gt; ○全国学力・学習状況調査の結果を分析したところ、データを活用するなどして、自分の考えを構築する設問に無回答が多く見られる。 ○学校評価における宿題や復習等の取組に係る質問に対する生徒の肯定的な回答が約8割にとどまっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律の徹底と「なぜ」「どうやって」を重視する活気ある授業の創造</li> <li>教科横断的な学習や個別最適化された学習指導への挑戦</li> </ul>	<p>①自律した学び手を育成する「三室中 GIGA スクール」「三室中読解力向上プラン」の推進</p> <p>②授業づくりに係る情報共有の推進及びよい授業のアンケートへの独自項目の設定などによる授業力の向上</p>	<p>①市学習状況調査等における各教科の学習意欲に係る質問に対する肯定的な回答の割合が高まるとともに、全国調査における無解答の割合が減少したか。</p> <p>②「三室中学校の授業づくり」に基づく学習指導の充実を図るため、授業研究会や校内研修が活発に行われたか。</p>	<p>①市学習状況調査等における各教科の学習意欲に係る質問に対する肯定的な回答の割合は令和3年度比平均4.9%減少したが、全国調査における無解答の割合は令和3年度比平均4.2%減少した。 ※R3は2科、R4は3科の平均</p> <p>②週1回の研修推進委員会を中心に校内研修会において準備を進め、11月には「読解力向上及びICT活用を視点とした授業改善」に係る研究発表会を開催した。</p>	A	<p>→市学習状況調査等において、「学校生活で不安なことはなんですか」との質問に対し、約4.4%の生徒が「学習」と回答している状況を改善するべく、次年度は「個別最適化」「ユニバーサルデザイン」について全校で研究し、学習面における安全安心な風土を醸成する。</p>	<p>学校運営協議会からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な授業改善の取組が、子どもたちにとって楽しい授業の提供につながっているようであらう。</li> <li>正解のある問いに答える訓練だけでなく、考えたり、表現したりする学習を重視してほしい。</li> <li>授業に関する学校評価項目については肯定的な回答の割合が90%を超えるよう努力してほしい。</li> <li>家庭学習の充実について、保護者と学校が話し合うことが必要である。</li> </ul>
2	<p>&lt;現状&gt; ○全国学力・学習状況調査及び市の学習状況調査において、学校に行くのが楽しいと回答する生徒は約9割に上昇している。 ○学校評価におけるいじめや問題行動への指導、保護者からの相談を受ける体制に係る質問に対する保護者の肯定的な回答の割合が約9割に上昇している。</p> <p>&lt;課題&gt; ○コロナ禍によるストレスが生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に支援していく体制づくりが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「三室中学校いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ防止対策の推進</li> <li>ガイダンスとカウンセリングのバランスの取れた生徒指導・教育相談の推進</li> </ul>	<p>①生徒の安心と安全を守るための危機的事案に対するスピーディで組織的な対応</p> <p>①第3次さいたま市生徒指導総合計画「子ども輝きプラン」に基づいた指導の充実</p> <p>②校則の見直し等の継続による Well-Being な学校づくり</p>	<p>①生徒指導部会・教育相談部会を定期的に開催することにより、いじめの認知、認知、指導、見守り、解消の対応を確実に実施し、学校評価における生徒保護者の生徒指導・教育相談に係る質問に対する肯定的な回答の割合が増加したか。</p> <p>①「見守り強化チェックリスト」等により、定期的に生徒指導・教育相談体制の点検を行えたか。</p> <p>②校則の見直しを継続するとともに、制服について検討することができたか。</p>	<p>①学校評価では「いじめや問題行動について、実態を見落とすことなく、適切に指導している」について、保護者からの肯定的な回答の割合は令和3年度比0.6%増加し、89.1%となった。また、「生徒や保護者からの相談に対して誠実に対応している」について、保護者からの肯定的な回答は令和3年度比2.2%増加し、93.3%となった。</p> <p>①「見守り強化チェックリスト」「年間指導計画上の危機予測シート」などを活用し、定期的に生徒指導・教育相談体制を見直し、時期や生徒の状況を踏まえた指導を行うことができた。</p> <p>②地域及び保護者の代表、生徒、教職員による制服検討委員会を開催し、女子用のストラップを導入することができた。</p>	A	<p>→いじめの問題については、引き続き、「いじめの芽」のうちに対応する機運を大切にするとともに、保護者に対するいじめの問題に対する啓発活動に取り組む。</p> <p>→生徒の自己存在感を高めるため、学校行事等の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめや問題行動に係る対応が早く、大変素晴らしい。その体制を維持してほしい。</li> <li>心が揺れる時期の子どもたちに寄り添ってくれる先生方の存在が頼もしい。</li> <li>自己肯定感を高める指導を大切にしてほしい。</li> <li>三室中の生徒が悪いということではなく、中学生年代にある子どもたちには、マナーに関する指導が重要である。</li> </ul>
3	<p>&lt;現状&gt; ○昨年度の学校運営協議会準備会において、目指す生徒の姿について熟議をし、「自分の考えを自分の言葉で言える生徒」「自分の言葉に責任をもとんとする生徒」を学校と地域が協力して育てていくことを確認した。</p> <p>&lt;課題&gt; ○今年度は、学校運営協議会を立ち上げ、目指す生徒の姿を、家庭、地域、地元企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、そのために学校の抱える課題について積極的に情報提供し、課題の解決に向けた方策について検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPや学校公開を活用した教育活動に係る積極的な情報発信</li> <li>学校運営協議会を核とした持続可能なスクール・コミュニティの構築</li> </ul>	<p>①大きく変化する学校教育に係る説明機会を創出するなど、地域に開かれた学校づくりの一層の推進</p> <p>①学校運営協議会の開催に寄り、三室中学校の現状について地域の方と情報を共有し、課題の解決に当たる。</p>	<p>①学校HPや安心メールによる情報提供を積極的に行い、学校評価における情報公開に係る質問に対する保護者の肯定的な回答の割合が増加したか。</p> <p>①学校運営協議会の内容を保護者の方に周知することにより、学校評価における地域との連携に係る質問に対する保護者の肯定的な回答の割合が増加したか。</p>	<p>①学校評価では「教育活動を保護者や地域に積極的に公開している」「家庭や地域への連絡を分かりやすく行っている」について、保護者からの肯定的な回答が令和3年度比平均5.4%増加し、91.4%となった。</p> <p>①学校評価のコミュニティスクールに関する項目「三室中学校は、地域の特色を生かした学校づくりを行っている」について、保護者からの肯定的な回答が令和3年度比3.4%増加し、94.3%となった。</p>	A	<p>→今年度の合唱祭で実施した各家庭へのオンライン配信や、面談等のオンライン化に取り組む。また、生徒の交通事故防止に保護者と協力して取り組む。</p> <p>→三室小学校150周年事業への協力を核として、中学生が活動している様子を地域の方に参観していただく機会を引き続き設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事はこれから復活してくるだろうが、学校行事など、子どもたちが実際に体験をして学ぶ機会の確保に努めてほしい。</li> <li>子どもたちのために学校運営協議会として活動ができるとよい。</li> </ul>
4	<p>&lt;現状&gt; ○新たな学びのスタイル心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○教科の枠を越えてよりよい授業づくりについて話し合う教職員の姿が見え始めている。</p> <p>&lt;課題&gt; ○20代、30代が半数以上を占める職員集団となっており、学習指導、生徒指導両面で経験の少なさを補う手立てが必要である。 ○コロナ禍による各種活動への対応のため、勤務時間外在校時間が多くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の同僚性を高め、居心地のよい職員室の構築</li> <li>教職員の危機意識の向上による働き方改革</li> </ul>	<p>①授業づくりにおける研修推進委員、ICT活用におけるエバンジェリスト及び生徒指導・教育相談における各主任から教職員に向けて指導のポイントを発信するなど、ミドルリーダーを中心とした教育活動の展開</p> <p>②教員が本来の業務である授業準備や生徒と話をする時間を確保するため、物理的な業務削減を実施するとともに「年間計画上の危機予測シート」を活用した教職員の危機意識の向上による働き方改革の推進</p>	<p>①各種主任からの情報発信を週に1回程度継続することができたか。</p> <p>②勤務時間外在校時間を令和3年度比5%削減することができたか。</p>	<p>①生徒指導主任、教育相談主任、研修主任等から全職員に向けて、週に1回程度の定期的な情報発信を行うとともに、エバンジェリストからICT活用に係る情報を不定期に発信することができた。</p> <p>②学年主任を中心として情報共有に基づいた組織的な対応を重ね、勤務時間外在校時間については、令和3年度平均25時間から令和4年度平均21時間へ削減することができた。</p>	B	<p>→職員の間接性を高めるため、職員間の声掛けを引き続き大切にする。また、不要なもの無駄なものの廃棄に努め、在校時間を意識した業務の進め方をICTの活用により一層推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の地域移行については段階的に進んでいくことなので、期待している。</li> <li>無駄や重複等のないように業務を見直してほしい。</li> </ul>

